

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 令和3年度 岐阜県立関有知高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和3年11月8日(月) 9:30~11:30
- 3 開催場所 関有知高等学校 会議室
- 4 参加者

会長	丹羽 章	中部学院大学 事務局長
副会長	平田 昌隆	下有知中学校 校長
委員	木村 有希	下有知保育園 主任保育士
	北村 隆幸	せき・まちづくりNPOふうめらん 代表理事
	杉戸 美月	関市役所市民協働課 書記
学校側	谷口 正明	校長
	堀 卓也	教頭
	中藪 淳	事務長
	大野 広行	総務部長
	名和 憲一	教務主任
	福山 美苗	生徒指導主事
	原 和幸	進路指導主事
	水阪 文恵	生活福祉科主任
	辻 祥平	特活係長
	横山 玄斗	記録

5 会議の概要(協議事項)

(1) 学校の状況説明及び授業参観

報告1: 改装工事について(教頭)

トイレの新築・改装、連絡通路の改装、体育館のスロープの新設を行っている。生徒の安全にも配慮して工事を進めていけるよう、業者にもお願いしている。完成予定は、令和4年2月である。

報告2: オンライン授業について(教頭)

オンライン授業を8月27日(金)~9月24日(金)(3年生は9月10日(金)まで)の期間で実施した。オンライン授業と並行して、オンライン教育相談を実施し、生徒の心のケアに努めた。

全体への連絡は、すぐメールや学校HP、e-learningシステムを利用した。

オンライン授業について、本年度より指導要録への記載が明確化したため、出席簿への記録方法を学校として新規に定めた。

◎オンライン授業を振り返って

(メリット)

- ・コロナ禍で、感染リスクの少ない形での学習機会の保障ができた。

- ・教員及び生徒のICT機器の活用力が向上した。
- ・集団に入ることによってプレッシャーを感じていた生徒が参加できた。

(今後に向けての課題)

- ・これまでの準備に加えて、新しいかたちでの教材を準備する時間を要する。
- ・履歴により参加は確認できるが、質的な状況把握のための工夫が必要になる。
- ・双方向で授業を行おうとしたが、通信トラブル等で一方の授業もできないことがあった。

報告3：ICTを活用した授業及びアプリケーションの活用

- ①校務支援システム「e教務」
- ②授業支援アプリ「Metamoji classroom」
- ③クラウド型教育支援システム「manaba」
- ④ブラウザ型採点システム「百問繚乱」
- ⑤オンライン会議システム「Cisco webex meeting」

(2) 各分掌からの報告及び今後の取組

①総務部

- ・学校見学会を7月27日(火)、28日(水)に実施した。
- ・「関有知ジモト大学」の実施について
地域連携による魅力ある学校づくりの一環として実施した。「せきてらすの若者利用を増やすためには？」をテーマとし、ポスター、グッズ、動画を作成するなど、地域の方々と共に広報活動を計画し実施する中で、「社会人基礎力」の育成を図る。事前のアンケートから見えてきた生徒の課題である、発信力と想像力を涵養していく。

②生徒指導部

- ・生徒の質が変化している。全体としては落ち着いてきているが、基本的な生活習慣が確立していないことによる問題はある。また、生徒を取り巻く家庭環境の変化、ヤングケアラーの増加等に伴い、生徒自身もストレスを抱える事例が増えている。
- ・多くの生徒が学校の友人や先生とのつながりの中で支えられているが、人と関わる力が弱まり、人間関係の不安定さが次の問題へとつながる事例が心配されている。
- ・コロナ禍がもたらす心身の不調や不安を訴える生徒が一定数いる。生活の基盤となる安心、安全な学校づくりのため、生徒の課題解決力の向上のため、対面でのきめ細やかな指導と支援を行う。

③進路指導部

- ・昨年度はコロナ禍で未実施の行事があったが、本年度は方法を吟味し、実施した。
- ・ようこそ先輩(1年生)、インターンシップ(2年生)、進路別対策講座(3年生)等の行事を通じてキャリア教育を行った。インターンシップに関してはコロナの影響で実施可能な企業の総数が減少したため、就職希望生徒を中心に行った。
- ・進学希望者に対しては、現在総合型選抜等のいわゆる推薦入試の直前の時期であり、面接、小論文指導の指導が最終段階に入っている。
- ・就職希望者は多くの生徒の就職先が決まってきた。コロナで減少した求人はかなり回復してきているが、事務系、販売系は厳しい状況である。

④家庭教育部

- ・本年度より県下統一の科名変更により、「生活福祉科」から「生活デザイン」に名称変更された。
- ・将来、地域生活産業分野のスペシャリストになれる人材、特に、地域から期待されている福祉分野で活躍できる人材の育成を目指している。
- ・生活産業の分野への関連就職・進学が年々減少してきていることが気付きである。
- ・HPによる情報発信により、生活産業分野に興味を持つ入学生の増加に期待している。
- ・家庭科技術検定や全商ビジネス文書検定等に挑戦し、多数の合格者が出ている。
- ・対面ではないボランティア(絵手紙、消しゴムスタンプ、箸袋製作等)活動を実施している。国際ソロプチミスト関に助成していただいているSクラブ(※)活動についても、

物品製作やオンライン交流等、対面ではないかたちで実施している。

※Sクラブ

管理職、専門職に就いている女性の国際的な奉仕組織である国際ソロプチミストがスポンサーとなり、学校や地域に何か役立ちたいと考えている中学生・高校生の活動を支援する組織。

(3) 関有知高等学校スクール・ポリシーについて

第1回学校運営協議会を経て策定した第1案に対して、承認を得た。

(4) 県立学校体育館施設開放について

校内の状況及び今後の方針について、承認を得た。

(5) 委員からの感想・意見

意見1:デジタル化が進む中で、ICT機器への対応が高校生のうちからなされていることは、将来役に立つ。授業以外の時間で生徒が地域に関心を持つ機会は少ないので、授業時間内で生徒に関わる時間を設け、地域とつながることが出来るのは非常に有難い。学校と行政とが関わりを持てる機会が今後も増えていくことに期待したい。

意見2:生徒を取り巻く家庭状況の変化に対してどのように学校は対応していくのか聞きたい。また、「学び直し」は本校としては重要なことであるが、現状と今後の展望について聞きたい。

(意見2については、教務部、生徒指導部から現在の取組と今後の展望を説明し、委員の理解が得られた。)

意見3:今までのやり方を変えることは大変だと思うが、ICT機器を積極的に取り入れ、生徒は真剣に取り組んでいた。社会人基礎力についての総務部のアンケート結果について、私たちの職場でも新規採用の人や実習の人について、真面目だが積極性や発信力に課題を感じることがある。ICT機器を使った活動だけでは育たない力がいろいろな活動の中で育っていると思う。

意見4:中学校でもキャリア教育を行っているが、中学校3年生ではまだ決めきれない生徒も多い。高校から情報提供をしていただき、それを中学生に伝え、考えさせて送りたい。高校のICT機器の活用や負担軽減のための採点システム等が分かって参考になった。小中学校でも様々にタブレットが活用されている。情報モラルの点で、活用方法の整備が重要である。高等学校での使い方を中学校に持ち帰り、適切な活用について考えていきたい。

意見5:本当にいい学校になってきた。先生方もまとめ、新しい取組に前向きであることに大変感銘を受けた。地域のいろいろな力を借りて、学校教育ではなかなかできない部分を補っている。関市は若者に地元に戻ってきてほしいという思いが強い地域である。関市でしかできない地域と学校の関わりがある。地域と学校が一体となって生徒を育てていく中で何か大きなことを成しえるのではないかと期待が大きく膨らんだ。

6 会議のまとめ

第2回学校運営協議会において得られた様々な意見を本校職員で共有し、今後の学校運営に活かしていきたい。